

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 大阪市 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	「人権を基底とした教育活動の推進 ～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～」
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

大阪府教育振興基本計画（令和3年3月変更）の「人権を尊重する教育の推進」の項では、「子どもが様々な人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度をはぐくみ、自他の人権を守る実践行動へとつなげることでできる子どもの育成をめざす」と示している。そして、「身の回りにある不合理や矛盾に気づく感性を養い、互いに理解し、支えあいながら問題を解決していく力を育て、平和で民主的な社会及び国家の形成者として必要な資質の礎となる人権尊重の精神と実践への態度を養う」としている。

また、「大阪府教育委員会『人権教育・啓発推進計画』実施計画」（平成30年4月改訂）では、子どもの発達段階や各教科等の特性に応じて、地域との連携を進めながら計画的に人権教育に取り組むよう示している。各校園においては、それぞれの実態に応じた『『学校園における人権教育・啓発推進計画』実施計画』を立案し、教職員が人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人権感覚を養い指導力を向上させるための人権教育研修を行い、具体的な取組の実践に努めてきた。平成30年より本市教育委員会では「学力の基礎としての人権教育 個別的課題の実践デザイン」として「同和教育編」をはじめとする個別的な人権課題について解説概要版と実践事例集を作成し、本市教員用教育データベース「waku×2.com-bee」に掲載して、全学校園の教職員がいつでも活用できるようにしている。さらに、令和3年には「学力の基礎としての人権教育 個別的課題の実践デザイン～多文化共生～」を作成した。

大阪市の外国籍児童生徒数は増加傾向にあり、国や地域も多様化している。多文化共生教育を推進するためには、外国につながる児童生徒へのさまざまな支援の充実とともに、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の在り方について調査研究が重要である。

当該校においては、令和6年度は「人権を基底とした教育活動の推進～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～」をテーマとし、地域のひと・もの・ことに注目させ、地域資源や社会資源を活用することで自分の住む地域を愛し、誇りを持つとともに、他の地域のひと・もの・ことにも思いを巡らせ多様であることの豊かさを実感させなが

ら、自他を尊重する態度と、互いの違いを認め合う集団の育成を図る。また、クラスにいる外国につながる児童の国・地域についても「ちがうところ」「おなじところ」をありのままに受け止め、多文化共生社会の実現に向け、共生・協働し生かし合うことで、身の回りにある問題をよりよく解決したり、アイデアを出し合って新しい価値あるものを生み出したりすることができるという考えのもと、そのために必要な資質能力をはぐくむ取組の実践とその有効性について検証する。

そして、本事業を通じて研究の成果を発信・共有することで、さらなる人権教育の深化・充実につながるものと考え、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

(2) に記載の通り、研究のポイントとしては以下に記す。

- ①地域を題材にした生活・総合的な学習を中心にカリキュラムマネジメントを進める。
教科横断的に学習を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」とともに、児童相互のつながりを深め、人権教育を基底とした実践を進める。
- ②地域の人材や地域教材等を有効に活用し、ちがいを認め合い、ちがいを豊かさに変える活動や体験を通じて人権教育を進める。
- ③探究的な学習となるよう「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識した授業づくりを進め、「振り返りと課題設定の更新」(自己評価)を適切におこなうながら進める。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

大阪市立北津守小学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

9 学級（うち特別支援学級 3 学級）

○児童生徒数

107 名（令和 6 年 4 月 8 日現在）

○URL

<https://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e761761>

○指定理由

こども基本法が令和 5 年 4 月 1 日から施行され、こども施策の基本理念などを明確にし、国や都道府県、市区町村など社会全体でこどもや若者に関する取組「こども施策」を進められている。

本市でも、個別的な人権課題の一つとなっている「子供」については、「子供」自身が、いじめや虐待にさらされるという直接的な人権侵害を被ることもあり、生まれながらの環境的な、例えば両親や祖父母が被差別部落の出身であったり、障がい者や外国につながる当事者であったりするという、当該の「子供」自身は発達段階によっては意識していなかったり気づいていなかったりする、その意味での間接的な人権侵害を被っていることもある。

今回指定予定の当該校の児童の実態や中心に据えている研究の内容を考えると、いじめや虐待は日常的な課題、当然のこととして日々取り扱う課題とし、特に、個々の子どもたちが背景として抱える様々な人権課題に焦点をあてた内容を重点的に取り組んでおり、本事業の趣旨に則って指定するに相応しいと考える。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

① 子供	
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	
⑤ <u>同和問題</u>	◎
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

「人権を基底とした教育活動の推進～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～」

- ① 地域の「ひと」「もの」「こと」に注目し、地域資源や社会資源を活用しながら各学年の実態に応じたカリキュラムを作成する。その際、外国につながるのある児童に着目し、生活や文化などの多様性を大切にした実践をすすめる。教員一人一人がカリキュラムマネジメントに参画し、教科横断的に各教科の学習を有機的に関連付け、効果的な学習活動が進められるようにする。

また、「主体的・対話的で深い学び」とともに、クラスの子どもたちがお互いを認め、つながりのある安心して過ごせる居場所づくり、仲間づくりを行う。人権教育が基底にあるという認識を教員一人ひとりが持ち、隠れたカリキュラムについての理解を深め、実践を進める。

- ② 地域と連携し地域から学ぶ機会を多くつくり、互いの違いを認め、そのちがいを豊かさにかえる人権教育を進める。また、区役所と連携し、外国につながるのある児童とその保護者が交流できるような新たなコミュニティを形成することで、居心地の良い学校、安心できる学校を目指す。
- ③ これまでも、生活・総合的な学習で人権学習の実践を積み重ねてきた。その中で探究的な学習課程の在り方についても研究してきた。探究的な学習として「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識した授業づくりを進め、「振り返りと課題設定の更新」（自己評価）を適切におこないながら進める。児童自身が「自分ごと」として捉えられる学習課題の設定、導入の工夫、教育D Xの推進・活用、表現の工夫等、カリキュラムマネジメントを進めながら実践する。

○実施方法

- ① 生活・総合的な学習の時間を中心に、教科横断的に実践をカリキュラムに位置付け、計画的に取り組む。
 - ・ 地域の人材をゲストティーチャーとして招いた学習。
 - ・ 低学年、中学年、高学年と発達段階が上がるにつれそれぞれ深い学びになっていくようにする。
- ② 教育課程外での取組
 - ・ 外国につながるのある児童や保護者が参加しての多文化共生交流会
 - ・ 国際クラブ（中国学級・民族学級・外国につながる児童の集まるグローブクラスの実施）
- ③ 特別の教育課程による日本語指導・母語指導
 - ・ 国語科の時間を中心に、教育委員会の事業も活用しながら、取り出しまたは教室入

り込みの専門家による指導を行う

【先進的な取組】

- ・多文化共生教育を進めるにあたって地域にある福祉センターと連携して、日本語学習や母文化に親しむ活動を放課後に行う。教育資源を活用するモデルの一つとして、地域と連携した実践を行うことは先進的である。
- ・日本語指導において、母語指導を両立させる取組を行うことで、児童の日本語力がどのように育ち、獲得の度合いや要する時間に変化があるかどうかを検証していくことはこれまでにない取組となる。

【期待される効果】

- ・地域にある教育資源として継続し、発展的な活動につながる。
- ・教育 DX を推進し、一人一台端末や ICT 機器を学習の手段や身近なツールとして活用することが定着する。

○検証・評価・改善・普及

①上記（２）の①②についての検証・評価

- ・北津守小学校では、年２回児童アンケートを行っており、以下の項目についての前年度比較を行い、その伸びをもって検証・評価を行う。 ※（ ）は前年度肯定回答の割合
- | | | |
|------------------------|-------------|---------|
| 「自分にはよいところがあるとおもいますか。」 | <u>70 %</u> | (71.0%) |
| 「授業中に友達と話し合うことは好きですか。」 | <u>84 %</u> | (88.0%) |

②成果と課題の発信・普及

- ・教育委員会の行う事業の活用にかかわっては、教育委員会と連携し、事業効果の一つとして活用を図っていただく。
- ・委託期間終了後の取組として、成果、効果のあった取組を精選し、教育課程編成に組み込み、継続して取り組んでいくことで、単年度だけではなく、中期的展望をもって取組後の検証を行い、発信していく。

5. 人権教育にかかる年間計画

インクルーシブ・福祉教育	平和教育	地域・同和教育①
障がいのあるなしや老若男女問わず、すべての人たちが相互に認め合い、尊重しあえる態度を涵養するために、共に生き、共に学び、育とうとする集団を育てる。	戦争の悲惨さと平和の尊さ大切さを知る学習を通して、自分の他者との関わり方を考え、目の前に直面する問題を平和的に解決できるようにする。	地域にある施設の見学や地域の人との交流、地域産業の学習を通して、地域の人たちの思いや町のすばらしさに気づき、愛着がもてるようにする。また、友だちと協力することの大切さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。
①「いろいろなひとがいるよ」 ②「手やゆびで話そう」 ③「障がい者スポーツを知ろう」 ④「車いす体験しよう」 ⑤「視覚障がいについて知ろう」 ⑥「社会のバリアについて考えよう」	①「せんそうやへいわについて知ろう」 ②「戦争や平和について知ろう」 ③「平和について考えよう～広島～」 ④「平和について考えよう～大阪～」 ⑤「平和について考えよう～沖縄～」 ⑥「ヒロシマから学ぶ～世界平和～」	①「あきまつりをしよう」 ②「秋まつりをしよう」 ③「地域の工場を見学しよう」 ④「北津守ブランドをさがそう」 ⑤「笑顔をつくる工場を見学しよう」 ⑥「よいしい賞工場を見学しよう」
多文化共生教育	いのちの教育(いのちの学習)	地域・同和教育②
世界にあるいろいろな国の文化にふれ、ルーツがある友だちがいることを知るとともに、違いを認め合いお互いに尊重し合い、共に学び合おうとする集団を育成する。また、在日外国人児童の自身のアイデンティティの自覚と誇りを高める。	男女の体の違いや個性、性別、生命の誕生の学習を通して、自分の命・心・体・性はかけがえのない大切なものであることを知り、自他ともに尊重し合える集団を育成する。	具体的に差別や偏見の意識が形成される過程や、人々がステレオタイプで考えてしまうような事柄などについて体験的に学んでいくことで、差別や偏見を見抜く力を育てる。
①「いろいろなくにのあいさつをしよう」(たべもの) ②「いろいろな国のあいさつをしよう」(食べ物) ③「いろいろな国の遊びを楽しもう」(文化) ④「いろいろな国の遊びを楽しもう」(文化) ⑤「いろいろな国の楽器を演奏しよう」 ⑥「ヒロシマから学ぶ～世界平和～」	①「大切なからだ」 ②「生命の誕生」 ③「自分らしさってどんなこと?(LGBT)」 ④「育ちゆく体とわたし」 ⑤「大切な命」 ⑥「エイズについて正しく知ろう」	①「おにはうち！」 ②「もーおーうしです」 ③「和太鼓体験学習」 ④「隣保館の見学」、「君の家にも牛がいる」 ⑤「タやけがうつくしい」 ⑥「北津守の町づくり」、「地域の先輩の話」

1. インクルーシブ・福祉教育（1学期人権デー）6月集中実践(案)

学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画	学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画
1年	「いろいろなひとがいるよ」 (小学校教職員) 学校探検や学校で働く人たちにインタビューをし、自分たちの周りにはいろいろな人がいることを知るとともに、たくさんの人たちと関わりがあることに気づく。	① 学校探検をし、エレベーターや多目的トイレについて知る。 ② 学校で働く人々にインタビューをする。 ③ 北津守の町を歩き、いろいろな人に出会う。 ④ 自分たちの周りにはいろいろな人がいることを知る。	4年	「車いす体験しよう」 (西成高校・社協・ネットワーク) 車いすの構造と使い方を学ぶことで、足や身体に障がいのある方の大切な乗り物であることを知る。車いすで移動するのが困難な場面について考え、自分たちができることを考える。	① 車いすの構造と使い方について知る ② 西成高校生徒と一緒に車いす体験をする。 ③ 学校や北津守の町で車いすに対するバリアを探す。 ④ 見つけたバリアを交流し、自分たちにできることを考える。
2年	「手やゆびで話そう」 (デフサポーター) 聴覚に障がいのある方との出会いを通して生活の様子や手話について知る。指文字や手話、手話歌に親しみながらコミュニケーションを図る。	① 「手やゆびで話そう」を読んで聴覚障がいや手話について知る。 ② 自分の名前を指文字を使って伝える。 ③ 聴覚障がいのある方に出会い、生活の様子について知る。 ④ 手話や手話歌を使って聴覚障がいのある方と交流する。	5年	「視覚障がいについて知ろう」 (社協・包括・ネットワーク) アイマスク体験を通して視覚に障がいのある方の気持ちや介助の方法を知る。視覚障がい者に対しての工夫を探したり、自分たちにできることを考えたりする。	① 視覚障がいについて考える ② 点字を知り、自分の名前を打つ ③ アイマスク体験や手引き体験を通して視覚障がい者疑似体験をする ④ 学校や北津守の町で視覚障がい者のための工夫やバリアを探す。 ⑤ 見つけた工夫を共有し、自分たちにできることを考える。
3年	「障がい者スポーツを知ろう」(ポッチャ) (社協・包括・ネットワーク) パラリンピック採用競技である「ポッチャ」を体験し、障がいがある人でも創意工夫をすることで、誰もが個性や能力を活かせる場があることを知る。多様性を認めることの大切さを考える。	① 自分たちの周りには障がい者について考える。 ② 障がいを持った人でもできるスポーツは何かを知る。 ③ 実際に体験をしてみてもどのようなふうがされているかを知る。 ④ 健常者、障がい者でも一緒に楽しく遊べる良さを知る。	6年	「社会のバリアについて考えよう」 (ヒューマンライツ Wing) さまざまな障がいについて知り、共に生きていくことについて考える。社会の中にあるバリアについて考え、自分たちにできることや互いに認め合うことの大切さについて考える。	① これまでに学習してきた障がいについて考える。 ② 社会に存在するバリアについて知り誰もが安心な社会について考える。 ③ 学校や北津守の町でバリアや工夫を探す ④ 自分たちにできることを考え、互いに認め合うことの大切さを知る。

2. 平和教育（2学期人權デー）10月集中実践(案)

学年	単元名・学習のめあて	教材(例)	活動内容・計画	
1年	平和の集い (7月) 天王寺動物園 戦争体験者 視聴覚教材 (3年サイクル) 平和折り鶴 戦争の悲惨さ を知り、平和の 尊さについて 考えることで、 命の大切さや 平和を希求す る気もちをもつ	「せんそうやへいわについてしろう」 戦争は自分たちと同じ年代の子どもや動物の命を奪う悲惨なものであることを知り、平和の大切さについて考える。	・トビウオのぼうやは びょうきです ・しんちゃんのおさんりんしゃ ・ながさきの子うま	① 戦争によって幼い子どもや動物も命を奪われることを知る。 ② 戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える。
2年		「戦争や平和について知ろう」 動物たちのかけがえのない命を奪う戦争の悲惨さを知り、平和の尊さ、命の大切さを知り、願う気もちをもつ。	・ライオンがいなくなった どうぶつえん ・地雷を踏んだ象 「モーターの物語」	① 戦争は人間だけでなく動物の命も奪うことを知り戦争の不条理さ悲惨さを知る ② 平和の尊さ、命の大切について考え、平和を願う気もちをもつ。
3年		「平和について考えよう～広島～」 広島に投下された原爆について知り、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを知り、平和を願う気もちをもつ。	・おごりじぞう ・広島ヒカ ・つるのこぼれ	① 広島に原爆が投下されたことや、戦争でたくさんの命が失われたことを知る。 ② 平和の尊さ、命の大切について考え、平和を願う気もちをもつ。
4年		「平和について考えよう～大阪～」 大阪大空襲について知り、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを知り、平和を願う気もちをもつ。	・十六地蔵物語 ・おかあちゃんごめんね ・消えさめめあつと 「火の海大阪」	① 自分たちの住む大阪も戦争による空襲で、たくさんの命が失われたことを知る。 ② 平和の尊さ、命の大切について考え、平和を願う気もちをもつ。
5年		「平和について考えよう～沖縄～」 沖縄の文化や歴史の学習を通して命の大切さや平和の尊さについて考え、平和を願う気もちをもつ。	・対馬丸 一さようなら沖縄ー ・ウミガメと少年	① 沖縄の歴史や戦争、そして今の沖縄の抱える課題について知り、考える。 ② 平和の尊さ、命の大切について考え、平和を願う気もちをもつ。
6年		「ヒロシマから学ぶ～世界平和～」 ヒロシマの町や人から平和の尊さを学び二度と戦争が起きないように平和を希求する気もちをもつ。	① ピースおおさか、広島修学旅行を通して、今なお残る傷跡や資料から戦争の悲惨さを学び、二度と戦争が起きないように平和を希求する気もちをもつ。 ② 平和な世界を築いていくために自分たちにできることを考える。	修学旅行を見送る会 (10月) 平和のついでで作成したおり鶴を6年生に託し、平和を願う気もちをもつ 修学旅行報告集会

3. 地域・同和教育①（2学期）11月集中実践(案)

学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画	学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画
1年	「あきまつりをしよう」 (北津守保育所・ひかり学園) 自分たちで計画した遊びを通して、保育所・学園の子どもたちと交流し、相手を思いやる気もちをもつとともに、友だちや2年生と協力しながら活動する。	① どんなお店、遊びにするかを計画し必要な材料を考える。 ② 必要な材料を収集する。 (ニコニコ遠足⇒千鳥公園) ③ 遊びに使うものを作成し、お店の準備をする。 ④ 試しの店運営を行い、改善していく。 ⑤ あきまつりを開催し交流する。	4年	「北津守ブランドをさがそう」 (タカラベルモント) 北津守の地域で創業100年近いタカラベルモントの工場見学を通して、自分たちの地域について新しい発見や学習を深めることで、地域に対して関心をもつ。	① 地域にあるタカラベルモントの工場について知る。 ② 工場見学を通して、会社の歴史や業務、生産・製造について知る。 ③ タカラベルモントで製造された物が実際に使われている場所を探す。 ④ 見つけたことを共有するとともに、自分たちの地域に関心をもつ。
2年	「秋まつりをしよう」 (北津守保育所・ひかり学園) 自分たちで計画した遊びを通して、保育所・学園の子どもたちと交流し、相手を思いやる気もちをもつとともに、友だちや1年生と協力してリダーシップを発揮しながら活動する。	① どんなお店、遊びにするかを計画し必要な材料を考える。 ② 必要な材料を収集する。 (ニコニコ遠足⇒千鳥公園) ③ 遊びに使うものを作成し、お店の準備をする。 ④ 試しの店運営を行い、準備をする。 ⑤ あきまつりを開催し交流する。	5年	「笑顔をつくる工場を見学しよう」 (西成製靴塾・Re:fa) 地域に根づく産業について知り、見学・体験を通して、職人の技術と仕事にける思い、地域の活性化に向けて努力する姿にふれることで、自分たちの住む地域に親しみ、愛着と誇りをもつ。	① 地域の産業が皮とつながりがあることを知る。 ② 西成製靴塾の見学を通して地域の歴史や職人の思いを知る。 ③ Re:faの工場見学・体験を通して、職人の技術や仕事にける思い、地域に対する考えを知る ④ 自分たちの住む地域について考える
3年	「地域の工場を見学しよう」 (東和製作所) 北津守小学校に隣接する東和製作所の工場見学を通して、自分たちの地域について新しい発見や学習を深めることで、地域に対して関心をもつ	① 地域にある東和製作所の工場について知る。 ② 工場見学を通して、会社の歴史や業務、生産・製造について知る。 ③ 東和製作所で製造された物が実際にどこで使われているのかを知る。 ④ 見つけたことを共有するとともに、自分たちの地域に関心をもつ。	6年	「よろしい茸工房の見学に行こう」 (よろしい茸工房) 北津守地域の「子ども食堂」のあるよろしい茸工房の見学を通して、自分たちの地域について新しい発見や学習を深めることで、地域に対して関心をもつ。	① 地域にあるよろしい茸工房について知る。 ② 施設見学を通して、会社の歴史や業務、生産などについて知る。 ③ 見つけたことを共有するとともに、自分たちの地域に関心をもつ。

4. 地域・同和教育②

学年	単元名・教材	学習のめあて	活動内容・指導案
1年	「おにはうち！」(絵本)	・人を「見かけ」や「イメージ」などで判断していないかをどうかについて考えるきっかけにする。	校務分掌→同担→2023→2023部落問題学習→1年
2年	「も〜お〜 うしです！」(絵本)	・身のまわりの多くのものが生き物(牛)から作られていることを知る。 同時に、解体作業をしている人の存在を想像できるようにする。	校務分掌→同担→2023→2023部落問題学習→2年
3年	「和太鼓体験」(にしなり隣保館ゆ〜とあい) ※音楽科「地域に伝わる音楽でつながろう」と関連して	・和太鼓演奏の楽しさを知り、実際に体験する。 ・皮や太鼓職人のものづくりに対する思い、置かれてきた立場を知る。	寺島史視さん(ゆ〜とあい)と相談 太鼓の紹介、太鼓の練習、グループ練習、発表、質問
4年	「西成の町としなり隣保館ゆ〜とあいについて」 ※社会科「特色ある地域のくらし」と関連して	・地域にある(隣の校区)隣保館の見学を通して、その役割について知る。 また、そこで働いている人たちの思いを知る。	寺島史視さん(ゆ〜とあい)と相談
3・4年	「和太鼓の張替実演とパネル展」	・和太鼓づくり(皮の張替作業の見学)とその歴史、携わる職人の太鼓づくりへの思いを聞く。	リハビリおおさかの事業
5年	「タヤけがうつしい」(識字教室について)	・社会の様々な状況から、文字を獲得できなかった人たちの存在を知る。 ・実際に、地域の識字教室で学ぶ人たちの様子を先生から聞く。	校務分掌→同担→2023→2023部落問題学習→5年
6年	「北津守の町づくり〜あったらいいものも考えよう〜」 ※国語科「町の幸福論」と関連して ・地域の先輩からの話(にしなり隣保館ゆ〜とあい)	・自分たちの地域をより良くするために、どんなことをすればいいか、どんなものがあればいいかを考える。 ・「こんなものがあつたらいい」という声をもとに隣保館が様々な取り組みをしていることを知る。どのような思いで地域で働かれているかを知る。 ・お話を通して、自分の将来や、地域の未来について考えるきっかけとする。	校務分掌→同担→2023→2023部落問題学習→6年 寺島史視さん(ゆ〜とあい)と相談

その他の見学候補・・・中本商店、レンダリング工場、太鼓正

5. 多文化共生教育(3学期人権デー) 1月集中実践(案)

学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画
1年	「いろいろなくにのあいさつをしよう」 ※隔年実施 世界のいろいろな国のあいさつや食べ物について知り、つながりのある友だちがいることを知る。	① 世界のいろいろな国のあいさつ・食べ物を知る。 ② 世界のいろいろな国につながる友だちがいることを知る。 ③ いろいろな国の言葉であいさつをしたり、食べ物を知ったりすることで親しみをもつ。
2年	「いろいろな国のあいさつをしよう」 ※隔年実施 世界のいろいろな国のあいさつや食べ物について知り、つながりの大切にし、お互いを認め合う。	① 世界のいろいろな国のあいさつ・食べ物を知る。 ② 世界のいろいろな国につながる友だちがいることを知る。 ③ いろいろな国の言葉であいさつをしたり、食べ物を知ったりすることでつながりを大切にし、お互いを認め合う。
3年	「いろいろな国の遊びを楽しもう」 ※隔年実施 世界のいろいろな国の遊びや食べ物を通じて、違いに気づいたり、それぞれの良さについて考えたりする。	① 世界のいろいろな国の遊び・文化を知る。 ② 世界のいろいろな国につながる友だちがいることを知る。 ③ いろいろな国の遊びを楽しんだり、文化にふれることで違いに気づいたり、それぞれの良さを考えたりする。
4年	「いろいろな国の遊びを楽しもう」 ※隔年実施 世界のいろいろな国の遊びや食べ物を通じて、お互いを文化やつながりを大切にし、違いを認め合う。	① 世界のいろいろな国の遊び・文化を知る。 ② 世界のいろいろな国につながる友だちがいることを知る。 ③ いろいろな国の遊びを楽しんだり、文化にふれることでつながりを大切にし、お互いを認め合う。
5年	「いろいろな国の楽器を演奏しよう」 いろいろな国の音楽にふれ、楽器を演奏することで、それぞれの文化を尊重し、違いを認め合う。	① いろいろな国の音楽や楽器について知る。 ② いろいろな国につながる友だちがいることを知る。 ③ 隣国である韓国・朝鮮の楽器にふれ、演奏することを通して、それぞれの文化を尊重し、違いを認め合う。
6年	「ヒロシマから学ぶ ～世界平和に向けて～」 いろいろな国の歴史を学び、平和を尊重する気持ちをもつだけでなく、世の中の不条理に気づき、違いを認め合い、お互いを尊重する気持ちをもつ。	① いろいろな国の歴史について学ぶ。 ② 修学旅行を通して、平和を尊重する気持ちを大切にしながら、世の中の不条理について知り、違いを認め合い、互いを尊重する気持ちをもつ。

人権デー 民族交流会 (2月)

世界のいろいろな国の言葉や食事、文化や音楽を知り、違いを認め合いお互いを尊重する気持ちをもつとともにつながりを大切にする。
世界のこと以外に下記の学習についても発表でもいい。
【個別的人権課題】
○女性の権利
○子どもの権利
○高齢者の権利
○障がい者の権利
○同和問題 ○アイヌの人々の権利
○外国人の権利
○HIV 陽性者の権利 ○ハンセン病回復者の権利
○刑を終えて出所した人の権利
○犯罪被害者等の権利
○インターネットによる人権侵害
○拉致された被害者等の権利
○LGBT 等 性指向・性自認にかかわる偏見・差別
○ホームレスの権利
○人身取引(トラフィッキング)問題
○その他の人権課題

6. いのちの教育(いのちの学習)

学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画
1年	「からだときもちをまもるために」 4月(防犯教室実施予定) 「大切なからだ」 3学期	① 身近に起こる危険から自分を守ることができるようにする。 ② 男女のプライベートゾーンを知り、からだを大切にしようとする気持ちをもつ
2年	「生命のたんじょう」 3学期	① 体内で育つ生命や出生について知り、生命の尊さと家族の愛情に気づく
3年	「自分らしさってどんなこと?」 (LGBT)」 3学期	① 性別は一人ひとり違うことを知り、LGBTについて正しい情報を知る。
4年	「育ちゆく体とわたし」 3学期	① からだの変化を知り、男女の特性や個人差について理解する。
5年	「大切な命」 3学期	① 受精から誕生までの過程における胎児の生命力を感じ取ることを通して生命の尊さについて考える。
6年	「自分の安全について考えよう」 6月(非行防止教室実施予定) 「エイズについて正しく知ろう」 3学期	① 身の回りにひそむ危険について知り、自分の身を守る心構えをもつ。 ② エイズについて正しく理解し、予防について考える。

7. その他

学年	単元名・学習のめあて	活動内容・計画
1年	「こっか・こっきについてしろう」 12月 「しん1ねんせいをむかえよう」 3月	○ 世界中の国には国歌や国旗があることを知る。 ○ 新1年生の学校体験で学習の様子を公開する。
2年	「君が代・国旗について知ろう」 12月 「ガード下の犬 ラン」 5月	○ 世界中の国には国歌や国旗があることを知る。 ○ 校区探検等で校外に出かけた際に、野宿生活者について知る。
3年	「もっと君が代・国旗を知ろう」 12月 「新幹線の工場?東和製作所」 11月	○ 君が代や国旗がどのような場面で使われているかを知る。 ○ 東和製作所の見学を通して、地域に関心をもち、関連工場について知る。
4年	「もっと君が代・国旗を知ろう」 12月 「生きていたいから野宿する」5月	○ 君が代や国旗がどのような場面で使われているかを知る。 ○ 野宿生活者のくらしの様子を正しく理解し、望ましい関わり方を考える。
5年	「君が代・国旗について考えよう」 12月 「新一年生と交流しよう」 3月	○ 君が代・国旗には様々な意見や思いがあることについて考える。 ○ 新1年生の学校体験で交流活動を通して学校の様子を紹介する。
6年	「君が代・国旗について考えよう」 12月	○ 君が代・国旗には様々な意見や思いがあることについて考える。

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

